

須賀川市立義務教育学校「稲田学園」学園だより

とう oun
稲雲

令和6年2月15日発行

令和5年度 第13号

発行者：校長 星 彰



○募金活動

1月、2月にかけて、稲田学園で行っていた募金活動を各所にお届けする機会がありました。1月26日には、6年生が能登半島地震からの復興のために、ドライトマトプロジェクトの予算から日本赤十字に募金をしました。2月2日には、児童生徒会の行ってきた「寺子屋募金」を生徒会の代表の人が、市役所に届けてくれました。2月6日には保健委員会の代表の人が、赤い羽根募金を須賀川市の社会福祉協議会の方に手渡してくれました。

能登半島地震からの復興も、貧しさや争いのために学校にいけない子ども達に学校を作るための寺子屋募金も、地域の困っている人を助ける赤い羽根募金も、それぞれが必要な金額を合計すると何千億円という規模になります。

児童生徒が集める募金は、何千億円には遠く及びませんが、届けた募金で助かる人がいることは確かなことです。児童生徒が自分たちでできることを考えて、自分たちの募金を届けようとする気持ちにとてもうれしくなりました。



○雪かき

2月5日（月）から降り積もった雪のおかげで、校舎周辺は銀世界。地域の方が朝早くから通学路の雪かきをしてくださいました。ありがとうございました。また、8年生を中心に、早めに登校した生徒が雪かきをし



てくれました。5日の夕方にも雪かきをしてくれて、「明日も降ったら雪かきをしよう」と決めていた生徒もいたようです。誰かのために力を発揮できる稲田の子どもたちの心豊かな姿が見られました。

○SDGsポスター&SDGs未来新聞

福島民報社2023年度「SDGsポスター&SDGs未来新聞」ポスターの部で本校6年生の2名が、最優秀賞を受賞しました。テーマは「7年後の未来をよくするために私たちにできること」です。毎日、食べている給食をなるべく食品ロスが出ないように、毎週金曜日はクラスみんなで完食日としてがんばることなどが書かれています。

7年後の未来を考えて学習する6年生の学習の成果の一端が表われたこと、またそれが最優秀賞の受賞につながったことをうれしく思います。2月1日（木）には福島民報社からお越しいただいた方から賞状をいただきました。



○模擬議会

児童生徒会の代表が、1月22日（月）に市役所で行われた「中学生による模擬議会」に参加してきました。模擬議会は、市の担当者が生徒の質問に答えるために事前に準備を行って、本格的に答弁していただきます。本校から参加した2名の代表者も事前に準備をして臨みましたが、改まった場で意見を述べるのは、大人であっても大変なことです。

それでも参加した2名は、堂々と自分たちの考えを発表することができ大変立派でした。この経験を学校での児童生徒会運営に活かしてほしいと思います。



★雑感 卒業・修了文集

この時期になると、9年生からは卒業文集の、6年生からは修了文集の原稿依頼が届き、校長としてメッセージを書く機会をいただきます。

若い頃、卒業文集に必ず「健康第一」と書く先輩の先生がいらっしゃいました。その時には、「なんて平凡なことを書くのだろう」と思い、「何で、いつも『健康第一』とかくのですか？」と聞いたことがありました。その先生は「若いうちは分からないよ。そのうち分かるさ。」とおっしゃいました。今はその先生が、子ども達の健康を心から願っていたことがとてもよく分かります。今年は私も子ども達の健康を願って、6年生の文集に「健康第一」と書きました。